

Fly High, Together!



第 2 回生徒総会がありました



先週の金曜日に、第 2 回目の生徒総会が行われました。内容は、生徒会執行部と専門委員長による所信表明です。それぞれの役職から、今年の活動の目標と具体策についての発表がありました。パワーポイントで作った資料をプロジェクターで投影しながら、発表をしました。発表する人たちは、練習をしっかりと行うなど、準備を入念に行ってきた様子がうかがえ、分かりやすく丁寧に話をしていました。質疑応答も行われ、たくさんの質問が出ました

が、きちんと応答し、堂々と答えている姿がとても印象的でした。当日はとても寒く、防寒着を着ての生徒総会となりましたが、1・2年生全員が真剣に生徒総会に臨んでいました。生徒全員で今年の方針を共有することができたので、これから委員・係活動になお一層力をいれて、よりよい学校づくりのために全員で協力して欲しいと思います。

他の人をよく知ろうとする姿勢と

他の人の気持ちを思いやる想像力



～道徳「それでも僕は桃を買う」～

先週の道徳の時間は、「姿勢と想像力」というテーマで行われました。ある生徒作文である「それでも僕は桃を買う」という作品を読んで人権について考えました。山口県の人権指針を確認したあと、その作文を読みました。内容は次のようなものです。

家族で新潟を目指していたとき、磐越自動車道のサービスエリアで休憩をとった。その時、無邪気な子どもが母親に「桃食べたい」とせがんでいたが、母親はだめだと言いつつ聞かせようとしていた。母親は言った、「だって福島産だよ。放射性物質という良くないものがついていられるかもしれないからね。」僕は、心の中に何かひっかかりを感じながら車に戻った。しばらく「だって福島産だよ」という言葉が頭から離れなかった。それは、小学校 5 年生の時に友だちから言われた、「黙れ、中国人。」という言葉と同じ、嫌な響きを感じたからだ。中国生まれの日本育ちである僕は、自分が中国国籍であることを表に出して生活しており、気にとめることはなかった。しかし、けんかが発端となって友だちが発したその言葉に、僕の心は突き刺された。自分は他のみんなと違うんだ、仲のよかった友だちが、心の中で僕を差別していたんだと切なく、悔しくなった。「福島産だよ」という言葉も、放射性物質のことをあまりよく知らないのに、危ないと決めつけられている。福島の桃は、被害ではなく、差別されているのだと僕は感じた。21 世紀の今、日本そして世界のあちこちで、いまだに多くの偏見や差別が残っている。それはなぜか。僕は、警戒心からではないかと思う。よく分からないから怖く疎ましく、自分から遠ざけようとする。その気持ちが、偏見や差別を生むのだ。その警戒心を取り除く鍵は、2 つあると僕は考える。1 つは、他の人のことをよく知ろうとする姿勢、もう 1 つが、他の人の気持ちを思いやる想像力である。

授業では、この作文を書いた生徒が言っている「他の人のことをよく知ろうとする姿勢と他の人の気持ちを思いやる想像力」とは具体的に言うとどんなことか、について考えました。

【授業後の感想より…】

○最初から目をふさぎ、耳をふさいで何も知ろうとせずに噂だけで善悪を判断するのではなく、ちゃんと目と耳と心で相手のことを考え、相手の立場になって想像していくことが大切だと思った。自分も、そんな姿勢と想像力をもった人になれたらいいなと思った。

